

| No. | 日付 | 質問 | 回答 |
|-------------|------------------------|--|---|
| 移転後の幼稚園について | | | |
| 1 | 7/17(1回目) 7/17(2回目) | 久松幼稚園の定員が減りますが、定員を超える申し込みがあった場合は、どのようになりますか。 | 新入園児募集では、現在と同じくまずは久松幼稚園にお申し込みいただきます。定員を超える申し込みがあった場合は、他の園と同様に抽選をいたします。抽選で落選した方については、空きがあれば日本橋・有馬幼稚園をご案内させていただくか、久松幼稚園の定員に空きが出るまでお待ちいただいています(例年辞退者が発生し欠員が生じる場合があります)。 |
| 2 | 7/17(1回目) | 調整区域に住んでいる場合は、現在と同じく通園する幼稚園を選択することができますか。 | 調整区域に在住の方は現行通り、久松幼稚園または日本橋・有馬幼稚園にお申し込みいただくことができます。久松幼稚園の通園区域で調整区域以外に在住の方は、当初の申込時点から日本橋・有馬幼稚園を選ぶことはできません。 |
| 3 | 7/17(2回目) 7/18(2回目) | 常盤幼稚園の通園区域に住んでいる場合も、通園することができますか。 | 通園区域の幼稚園が休園中の場合は、次に近い幼稚園をご案内しています。常盤幼稚園の通園区域に在住の方は、久松幼稚園に入園申し込みができます。 |
| 4 | 7/17(2回目) | 小学校とは、どのような交流を考えていますか。 | 常盤小学校との交流と、久松小学校との交流をどちらも実施します。常盤小学校内に園舎があることで、身近に小学校の様子を体感できる、中休みや体育の授業など日常的に小学校児童の姿を見聞きできることが、良い交流の一つかと思っています。その他にも、小学校授業の見学や、体験もすることができます。また、多くの幼児の通学区域にあたる久松小学校では、「僕たち私たちが行く小学校なんだ」という気持ちを育むことができるよう、通園バスの活用やオンライン交流の方法も探りながら検討しています。両校と交流ができる環境を生かして、幼児の進学先に関わらず「僕たちはこういう小学校に行くんだ、早く行きたいな。」という希望や期待を抱かせるような計画を、小学校・幼稚園の教員と考えていきます。 |
| 5 | 7/17(2回目) | 久松幼稚園の体制や教育方針はどうなりますか。 | 教員配置は教育委員会で考えることですが、教育方針や教育内容は久松幼稚園のものをそのまま引き継ぎます。幼児にとって小学校就学前の段階でより良い経験ができ、良い基礎を培って就学できるよう、幼稚園教育要領の内容を前提に、両小学校との連携により特色として取り入れられるものについては取り入れていきたいと思っています。 |
| 6 | 7/18(2回目) | 常盤小学校長が久松幼稚園長を兼ねるのですか。 | 久松幼稚園の移転のため、常盤小学校長と久松幼稚園長をそれぞれ配置します。 |
| 7 | 7/18(2回目) | 常盤幼稚園の通園区域の子も受け入れると聞いたので、幼稚園の名前には常盤幼稚園という名前が入っていても良いと思います。 | 地域の皆様が、休園中の「常盤幼稚園」という園名の復活を願っていらっしゃることは重々承知しています。一方で、通園を希望する幼児が少なく休園せざるを得ない状況でもあります。久松幼稚園の通園区域の方が在住する子どもの数が多く、需要があることから、今回移転という形で調整をさせていただいているところで、そのため、久松幼稚園という名前で移転をする方針です(現在は、移転先である休園中の常盤幼稚園の歴史と伝統を踏まえるとともに、その園舎を活用することから、「常盤園舎」という名称も併せて使用していく方向で検討しております)。 |

| 移転後の通園方法などについて | | | |
|----------------|------------------------|---|---|
| 1 | 7/17(1回目) 7/17(2回目) | 通園バスの停留所やスケジュールは決まっていますか。 | 通園バスの停留所は、現在検討中です。停留所の数については、現在、お迎えの際に保護者の方が教員とお話いただけますが、バスの場合にはそれが難しくなります。教員との交流を考えると、久松児童公園周辺の一か所のみが停留所であれば教員との会話が可能ですが、複数の停留所の場合には「こちらはもう時間なので」と次の停留所に進まざるを得なくなります。一方で、複数の停留所があることで利便性が向上することから、現在検討を続けております。 また、実際の園児数でバスの台数も変わるため、詳細なスケジュールをまだおだしすることはできませんが、他園も含めた幼稚園入園の検討材料としていただけるよう、他自治体の調査や警察等との調整を進め、できるだけ早い段階で方針をお示ししたいと考えています。 |
| 2 | 7/17(2回目) | 自転車で幼稚園に行くことはできますか。 | 現在区立幼稚園では原則として自転車通園をお断りしており、駐輪スペースも限られることから、けがや病気などの緊急時を除き、同様に禁止させていただきたいと考えております。ただし、参観日などの行事では、地域の方や常盤小学校と調整していく中で、許可する可能性はあります。 |
| 工事などの影響について | | | |
| 1 | 7/18(2回目) | 常盤小学校の工事によって、校庭の使用に支障が出る期間はどの程度ですか。 | 工事内容だけでなく、講堂・幼稚園棟のレイアウトがまだ確定していないことから、期間などもまだ未定です。しかしながら、教育委員会としては、工事期間中もできる限り教育環境を阻害することないように、工事を進めていきたいと考えています。 |
| 2 | 7/18(2回目) | 常盤小学校の工事でアスベストが飛散する恐れはありますか。 | アスベストについては、今回の設計の中で有無を調査しています。万が一発見された場合、鉄骨耐火被覆材のような飛散の恐れがある場合は除去または封じ込めの措置を行い、それ以外で飛散の恐れが無い場合は使用状況に応じて、除去または残置することとなります。また、工事中にほこりなどで児童の健康被害の恐れがあれば、工事部分の区画や工事時間の調整を図るなどの対応を行うよう考えています(後日、調査報告でアスベストの使用が無いことが確認されました)。 |
| 3 | 7/18(2回目) | 常盤小学校講堂の外観は維持されますか。 | 建物の外観は基本的には変わりません。幼稚園の移転にあたっては、講堂内部に間仕切りなどを設けて保育室や遊戯室を作ることとなります。 |
| 代替案などについて | | | |
| 1 | 7/17(1回目) 7/18(1回目) | 小学校の調整区域を廃止して久松小学校の児童数を減らすことで対応することはできませんか。 | 調整区域を廃止し久松小学校に入学する児童の数を減らすことも一つの方法として考えていましたが、それぞれの地域の皆様が小学校に携わっていただいていることもあり、ご納得いただくまでには時間がかかると思っています。幼稚園の通園区域は小学校の通学区域と同様のため、調整区域を廃止した場合は、久松幼稚園にも通園できないこととなります。 また、調整区域を廃止した場合でも、日本橋小学校・有馬小学校の普通教室が不足することとなります。その場合に、城東小・阪本小・明正小を含めた通学区域の変更や特認校制度自体を廃止することとなります。さらに、特認校には月島地域からも多くの児童が通っているため、月島地域でも教室不足が発生することから、その影響は非常に大きく、今回の対応となりました。 |

| | | | |
|------------------------|------------------------|--|---|
| 2 | 7/17(1回目) 7/18(1回目) | 通学区域を変更することで対応することはできませんか。空いている小学校にバスで児童を通わせることはできませんか。 | 現在の通学区域は、単純な区分けではなく、中央区の長い歴史のなかでの学校と地域との関係を考慮して定めているため、できる限り維持していきたいと考えています。日本橋・有馬小学校も普通教室に余裕がないことから、人口が著しく増加し児童推計が上振れた場合には、通学区域の変更を行う必要があります。その際には、日本橋を超えて、城東・明正・阪本小学校といった隣接する地域の学区を含めて再編することになり、早い段階から時間をかけて議論し、個別に調整していく必要があると考えています。また、児童のことですので、単純に空いている小学校を指定校として通学させるということは、スクールバスの運用だけで対応できるものではないと考えています。 |
| 3 | 7/18(1回目) | 常盤小学校の古い講堂を改修して使用するのではなく、新しくできた別館を改修して幼稚園に転用することはできませんか。 | 別館は小学校が使用しています。別館の中で現在の音楽室兼視聴覚室や体育館の大きさを、校舎内の別の場所に確保することができません。また、別館は保育室を作るための構造としていないため、使い勝手の悪い保育室とせざるを得ず、別館を活用することはできません。 |
| 園児推計・児童推計などについて | | | |
| 1 | 7/17(1回目) | 移転後の幼稚園の需要をどの程度見込んでいますか。 | 毎年60～70名の方に久松幼稚園にご入園いただいておりますので、同規模で対応できるよう考えています。これまで説明会でいただいたご意見のなかで、そこまで「行きたくない」という内容を伺っているわけではありません。しかし、定員が一学年50名となることから、具体的にどれだけの入園希望があるかどうかは想定することできません。 |
| 2 | 7/17(1回目) | 幼稚園の場所が遠くなることで、希望者が減ることはありませんか。 | 保護者や地域の方から移転を残念がる声が一程度上がることは致し方ないと思っています。本区では、これからも子どもの増加が続きます。幼稚園に入るのか、保育園に入るのかという選択においては、幼児教育・保育の無償化の影響もあり、保護者の方がある程度選択ができるようになっていきます。しかしながら、子どもの数が増加していることから、就園率が下がっても一定程度幼稚園を選択される方がいると考えており、その方を受け入れるための環境を整備し確保する必要があると考えています。 |
| 3 | 7/17(1回目) | 児童推計には、どの程度のずれが生じる可能性がありますか。 | 4ページの表を参照。 この推計は令和2年度に行ったもので、青い部分はその時点で既に誕生されている児童・幼児であり、大きなずれは生じてこないと考えています。一方、赤い部分はまだ産まれていない児童・幼児を予測しているため、変動すると認識しています。今後の誤差がどの程度生じるかは、今回のコロナ禍のような社会状況が転出入や出生数など色々な要素を左右します。このため、毎年推計を行い、予測の精度を高めながら、現在の久松小学校で対応できるように引き続き検討していきたいと考えています。推計自体はこれまでの実績を、将来の傾向として反映しているものと捉えており、36学級が将来的にもピークではないかと考えています。 |
| 移転方法などについて | | | |
| 1 | 7/18(1回目) | 一学年ずつ段階的に移転するのではなく、全学年が一括して移転することになった理由は何ですか。保護者による投票でどちらが良いか決めることはできませんか。 | 移転方法の選択は、当初から難しい問題だと思っています。一学年ずつ段階的に移転することが良いか、全学年が一括して移転することが良いかについて、両方の意見をいただいています。段階的に移転する場合は、幼稚園を一時的に2園体制とする必要があります。一括して移転する場合は、場所が移動して空間は変わるものの他学年がいて異年齢交流ができることから、久松幼稚園と同じ環境・体制を作ることができ、教育しやすいという教員からの意見がありました。 移転方法の決定にあたっては、どちらの意見もあることから、投票による決定は遺恨が残りにくいと考えたいと思っています。入園を希望していただいた方、対象となる方へ、移転についての周知を確実にし、不安を取り除けるよう対応していきたいと考えています。 |

| | | | |
|--------------------|-----------|---------------------------------|--|
| 2 | 7/18(1回目) | 全学年が一括で移転することのメリットを詳しく教えてください。 | <p>一括で移転することで現在の教育内容をそのまま続けていくことができます。異年齢交流ができるからこそ可能な育ち合いがあります。例えば5歳児が入園当初の3歳児をお世話することができることで、3歳児は安心感を、5歳児は小さい子を慈しむ心を育むことができます。また、5歳児と4歳児で当番を引き継ぐときに、5歳児の姿を見ることで「私たちもやってみたい」「私たちが年長さんになるんだ」という気持ちのつながりや、遊びを通して「こういう遊びが年長さん年中さんになったらできるんだ」という気持ちを持つことができ、久松幼稚園の基礎となる生活の文化的なつながりや遊びのつながりを継承することができます。</p> <p>加えて、教員としては「私たちの学級」ではなく「私たちの幼稚園」として幼児を見ているため、3歳児の担任も5歳児の幼児を知っています。教員体制が適切に整備できることで、教員の目が行き届きやすく、怪我やトラブルへの適切な対応ができます。また、教員のコミュニケーションのなかで、担任が見ていないところを他の教員が見ていることで、その子の良いところを掴んで教育につなげることができると考えています。</p> |
| 3 | 7/18(1回目) | なぜ令和6年度の1学期ではなく、2学期に移転するのですか。 | <p>2学期に移転する場合の良さとしては、新年度に保護者と幼児と教員が関係性をしっかり築いて1学期を送ることができるということがあります。1学期の間は、現園舎と新園舎を行き来することができます。その間に、教員が移転後の幼稚園の環境を全て決定するのではなく、例えば幼児が自分たちの遊具を持って行き、新しい園舎の生活を自分たちで作ることで、気持ちや生活面をつなげていく機会にすることができ、移転前後の段差が緩くなると考えています。</p> |
| 説明方法等などについて | | | |
| 1 | 7/18(2回目) | 説明会を重ねたことで変更した内容はどのようなものがありますか。 | <p>一番最初に説明会を行って以降変更した部分では、移転スケジュールの変更が最も大きいものになると思います。これは、異年齢交流など幼児教育を行う環境を考えるにあたり、当初は保護者負担などを考えて段階的な移転を方針としてご説明していましたが、説明会を重ねる中で、お問い合わせいただいた中で、「同じところ同じ建物内で兄妹一緒に教育を受けさせたい」という意見や「異年齢がいる環境のほうが良いのではないか」という意見に対してもう一度検討し、変更したものになります。また、移転に関しての不安の声も多かったことから、通園バスについては久松児童公園の付近から配車することに加え、複数の停留所を検討しようと考えているところです。</p> <p>基本的な教育委員会の考え方として、久松小学校のなかに久松幼稚園があったほうが良いと思っています。幼小併設で幼稚園を卒園した子が目の前の小学校に入ることが一番良いと考えています。今回、久松幼稚園が移転しますが、人口がピークアウトしたどこかのタイミングで久松小学校の中に久松幼稚園を戻したいと考えています。その時点は確約ができませんが、毎年児童推計をしていますので、地域や学校に関わる方々には、その状況を情報提供しながら推計を見てまいりたいということもご説明しました。</p> |

| | | | |
|------------|-----------|---|---|
| 2 | 7/18(2回目) | 常盤小学校みどり会には既に承諾を得たのですか。 | 学校が成立する背景には、地域の方やその学校の卒業生で構成される校友会の皆様、現役世代としてその学校に通われている保護者の方の協力があります。教育委員会として、皆様にご協力をいただきながら教育基盤を作っていくためにそれぞれの皆様に丁寧に対応するなかで、地域の皆様とお話しする回数が増え、常盤小学校の保護者の方に対する説明の機会が少し後ろになってしまいました。地域のご理解を得られないことには現在の教育基盤の維持が難しいことから、説明にお時間をいただいたものです。みどり会の皆様には承諾をいただくのではなく、今回の方針をご説明した上で、保護者の皆様が不安を感じている工事の部分などについてお伝えし、全体としてご理解いただくよう努力していく旨、お願いしております。 |
| その他 | | | |
| 1 | 7/17(2回目) | 現在、常盤幼稚園の通園区域に住んでいる方は、どこの幼稚園に通っているのですか。 | 現在常盤幼稚園の通園区域に在住の方は日本橋幼稚園をご案内しています。常盤幼稚園は平成19年度から休園しており、そのスペースを活用します。 |
| 2 | 7/18(2回目) | 常盤幼稚園は何教室あったのですか。 | 休園前当時は2年保育で、教室は2室ありました。最後の閉園前年度は園児が少ないため1教室のみを使用し混合保育をしていました。 |
| 3 | 7/18(2回目) | 常盤小学校講堂は、現在どのように活用していますか。 | 講堂では、別館ができるまで入学式や始業式、大きな集会を実施していました。現在は別館にある体育館をほぼ活用しています。コロナ禍の中では、学年集会など学年で集まるスペースとして活用していますが、稼働率としては以前より大分少なくなっています。 |
| 4 | 7/17(1回目) | 現在の久松小学校では何教室確保できているのですか。 | 今年度(令和3年度)末の時点で、普通教室は28教室まで確保できます。令和6年度に必要と推計している31教室までは、内部改修という形で、現在の多目的室など大掛かりな工事をせずに、現状の幼稚園が小学校に併設しているなかで確保できると考えています。 |
| 5 | 7/17(1回目) | 今回の対応が必要となる根本的な要因に対して、教育委員会だけではなく、区議会や区長部局とも連携して対応しているのですか。 | 根本的な要因として、本区の人口増加が続いている状況があると考えています。大きなタワーマンションなどの再開発はかなり前の段階で計画が示されるため、児童推計上も考慮することができます。一方で、中小規模のビルが50戸未満の小規模なマンションに建て替えられ、ファミリー層が入居するような場合はそれを考慮することが難しいです。それが日本橋地域の傾向となっており、予測がしづらい形で人口が増えている状況です。35人学級化による本区全体への影響は、児童推計を含めて区議会に報告しています。学校需要について、教育委員会として区長部局にも示しながら、何とか対応することで、新たに転入される子ども、あるいは新たに生まれた子どもの教育の場を適切に確保する努力をし続けているところです。 |
| 6 | 7/17(1回目) | 長期間戻れる見込みがないなかで、移転の期間に該当する幼児・保護者がかわいそうだと思います。 | 移転した後も通っている幼児に対してしっかりとした幼児教育を行うということは、幼稚園の教員も覚悟を持って臨んでいます。この対応で、幼稚園を移転させることに関して、幼児・保護者の方に負担をかけることがあることは認識しています。しかしながら、幼児にとってそれがプラスになるような工夫を、現在考えています。今回の移転に対する代替案は無いことから、何とかこのような説明会で保護者の方からのご質問に答えることで、ご不安を取り除く努力を重ねてきたいと思っております。 |

| | | | |
|---|-----------|--|--|
| 7 | 7/17(1回目) | <p>幼児教育が小学校に上がるうえで大事だからこそ幼稚園が無償化になりました。幼稚園と小学校の連携はできるのですか。</p> | <p>幼児教育・保育の無償化は、幼児教育が基盤となって義務教育につながる大事なものであるという認識のもと、国が示した政策だと思っています。国が公立幼稚園に力を入れるなかの一つが幼小連携であり、様々な遊びを豊かにして、知識・理解につながるような経験をすることだと考えています。園や教員が、地域の方からお話をいただきながら、幼小の連携や子どもの交流について、直接的な交流だけではなくオンラインなどこれからの時代にあった交流も含めて視野を広げ、現在実施していることを担保しながら新しい連携・交流の方法を模索していきたいと考えています。就学前教育をけん引し基盤となる公立幼稚園だからこそ、どこに行っても幼稚園教育ができる形をこの数年間をかけて計画していきます。</p> |
| 8 | 7/18(2回目) | <p>11ページの表で月島第一幼稚園があるのはなぜですか。</p> | <p>月島第一幼稚園は、幼稚園の面積が比較的同じ園として参考に載せたものです。</p> |